

## 令和2年度 第3回独立技術士交流委員会セミナー・メモ

日本技術士会中部本部 独立技術士交流委員会

1, 日時：2020年8月27日（木）13：30～17：40

2, 場所：Webexによるオンライン・セミナー

3, 出席者：18名

4, 司会：石川英司（Webexホスト）      メモ作成：伊藤文夫（追記 田島暎久）

5, 委員長挨拶

当独立技術士会も新型コロナウイルスの影響で、外部講師・内部講師による講演会を3回ほど中止したが、いつまでもウィルスには負けておれず対応しなければならないという事でWebex利用によるオンライン・セミナーを開催する。

本日の反省・改良を踏まえて今後も独立技術士会を盛り上げ、更にこんな時代であるからこそ、社会に貢献していきたい。

6, 内部講師の講演

### 「般若心経の応用と活用」

伊藤 文夫氏（機械部門） 伊藤技術支援パートナー

(1) 概要

・日本に入って来た歴史

初めて日本に招来したのは、サンスクリット語写本が法隆寺に。

758年（奈良時代）に淳仁天皇の「玄奘版を元にしたもの」を国民に勧める詔勅

それでは本家のインドで発生したのが何時であるかは全く不明。真言が入っているのが密教系らしいが、インドで密教の成立は4～8世紀であるから、合わない。次の中国の漢訳の歴史を見ても合わない。

・特徴をまとめると

「般若波羅蜜多」を5回繰り返している。

「呪」に大神、大明、無上、無等等の修飾語を付け、更に真実不虛と強調し4回繰り返している。

高僧・仏教学者は「大乘仏教の中心思想を語るお経で一字に千里を含むものなので隠れている価値を見出すのは難解である。」などと解説される。

「度一切苦厄とは精神的な悩みがなくなることではなく、たとえあったとしても、それにとらわれず、ちょうど酒を飲んでも酒に飲み込まれないような境地になることを指す。」そうすると、終わりまで読まない前から「高嶺の花で現実の暮らしに役立てられる」とは思わない。 ➡ 「百千万劫難遭遇」と思ってしまう。

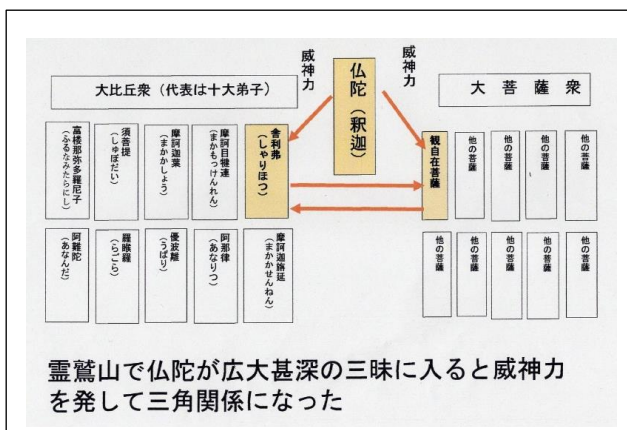
繰返しと修飾語を外すと 262 文字⇒53 文字と更に短縮

菩（提）薩（埵）を略すと菩薩となるがこの要旨（短縮文）で菩薩を観自在菩薩と限定すると文意が不明になる。

菩提薩埵。依般若波羅蜜多時（故）。照見五蘊皆空。心無罣礙。遠離一切顛倒夢想。度一切苦厄。究竟涅槃。故説般若波羅蜜呪。羯諦。提娑婆訶。

### ・般若心経の構成

（般若心経が語られる状況の  
抽象図は右図のとおり）



<右上図の説明>

お釈迦様の威神力を受けた弟子の舍利弗が、衆の中におられて同様に威神力を受けた観自在菩薩に、修行中の菩薩として経験された般若般若波羅蜜多の行について質問した処、「羯諦という呪（真言・マントラ）を繰返し行ずれば（声に出して唱えれば）、誰でも（凡夫でもチョットだけ背伸びした途上の菩薩になれて）、超常の智慧（無分別智）で心に罣礙（覆うもの）がなくなり、恐怖から解放され、生まれた時から授けられている生きる力を活動させ、度する（彼岸に渡る・代表的なものは大学病院でも治らない難病の治癒など）事ができる。そうした示教利己を受ければ五蘊皆空という事を照見して無上甚深微妙の仏陀の教えに遭遇する事が可能になる。更に最終段階として菩提娑婆訶（利他）すれば悟りを本物にできる。」と、ご自身の成功体験を説き明かされた。

### ・観自在菩薩って何？

主文の「観自在菩薩が深般若波羅蜜多を行じた時」という事は、逆説的には、行ずる前は、わたるにわたれなかった河があったという事になる。

浄土三部経のひとつの仏説無量寿経に次のように記されている。

「一名観世音、二名大勢至。是二菩薩、於此国土、修菩薩行、命終轉化、生彼仏国」（訳：一を観世音菩薩と名付け、二を大勢至と名づく。この二の菩薩は、この国土において菩薩の行を修し、命終わりにて轉化して、かの仏国に生まれたまえり）

娑婆であるこの地球世界に生まれてきたかぎり、苦に遭遇しない者はいない。観自在菩薩（その前身）とて例外ではなかったはず。

わたるにわたれない河をわたるために、仏陀は般若波羅蜜多をお授けになっておられる。しかし地球世界の衆生の多くは、この般若の智慧を信じなかった。

ところが、観自在菩薩は、この点については例外であった。そんな呪を繰返し唱えるだけ

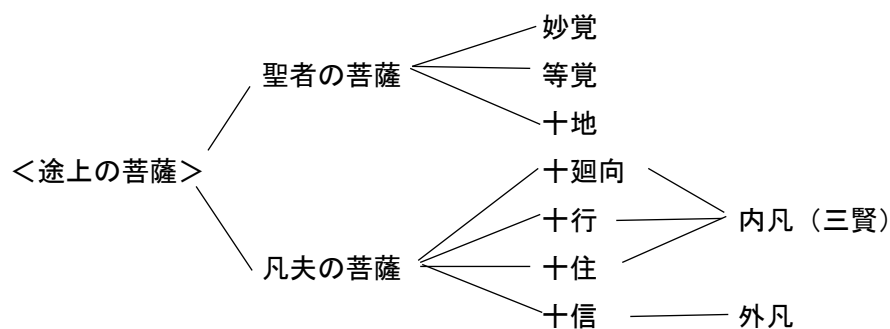
でという疑問はあったであろうが、それにはかまわず、般若波羅蜜多を素直に行じられた。すると、仏陀の教えに嘘があろうはずなく、到彼岸となった。

・菩薩って何？

<出典：国訳一切経三蔵集 第一輯 大正大学真野龍海教授>

経文の中に『乱心菩薩』『悪知識に迷わされる菩薩』とか、四姓平等の教団の中で、自らの出身の種族名を誇称すると菩薩に対する戒めの記事等がある。これを見ると、菩薩なのにと、意外な気もするが、よく読むと実は、それらは全て、悪魔が菩薩の隙を窺ってそうさせるのであるから、悪魔につけ入れられるな。という事なのである。・・・それだけに今日、我々が仏と同格にさえ考えている。神格化した菩薩とは当時は異なり、小乗仏教の比丘と同じく、大乘仏教僧団の一員という意味で使われた事が推測され、親近感をすら覚えるのである。」

<仏陀の菩薩>：仏陀が菩薩の名のもとに衆生の教化・救済に尽くしておられる場合、例えば観音、勢至、文殊、地蔵等の諸菩薩



「菩提薩埵は涅槃す」の菩提薩埵を仏教学者が「仏陀の菩薩」と考えていることは、それはそれでよいが、この考え方だけに閉じこもってはいは、般若心経は私たち凡夫とは無縁の經典になってしまう。

・色即是空、空即是色の意味

現実にあるものを何故「ない」と否定するかというと、仏教の基本的な考え方に「因縁生起」があるから。

「因」は結果を生じさせる内的な直接原因「縁」は外からそれを助ける間接的原因

「因縁生起」は、全ての現象は原因（因）や条件（縁）によって成立しているもので、独立自存のものではなく、原因や条件がなくなるか、新しい原因や条件が加われば、結果（果）も自ずからなくなる、あるいは変化する。

空には「ない」という意味があるが、ふくれて中がうつろになるのは、因と縁とが「ある」から。

因と縁とがあつての色だから、因と縁とはとりもおさず色なのだというのが「空即是色」色即是空の空は「ない」に重点、空即是色の空は「ある」に重点

病即是空、空即是病と置き換える。病はある、あるけれどもなきに等しい。それは因と縁とのあられにすぎないからと考える。

・心貧しく素直に解釈すると

＜般若波羅蜜多・度とは＞

般若はサンスクリット語のプラジュニャー/パンニャーの音訳で智慧という意味。仏様の智慧の全てでない。私達が授けられて全く利用できない様な物では無駄だから。

但し、今までの知識と経験から分別して理解できるものではない。

波羅蜜多はサンスクリット語のパーラミターの音訳で彼岸にわたる意味。結局、般若波羅蜜多とは般若の智慧によって私たちの智慧では達成できない願望を達成させる事または達成させる智慧の意。

通常の「河をわたる」は渡る、どんな手段でもわたれない時は度という漢字を使う

＜般若心経の「心」とは？（大般若経 600 巻真髓が定説だが）＞

「心」はサンスクリット語のフリダヤの漢訳（意識）、フリダヤは心臓なので①真髓の意と②ここは心臓にあるのでこころの意と2説に分かれる。

玄奘は多分①の真髓の意。本人の言及はないが、高弟の慈恩大師窺基（きき）が般若心経幽賛という注釈書で「大般若経はあまりにも龐大すぎるから、誰にでも伝習できるようにその精要だけを記した」とあり、師匠≒高弟だろうという事でこれが定説

空海は「こころ」と考えた。大般若経の心髓経でなく、般若心（般若菩薩の心・真言）の経であると。

従来の定説に基づき「般若心経の中に記されている言葉を、ほとんどの人が大般若経 600 巻の中に見出す事」に解釈を注いできた。

巽直道先生は、逆に「大般若経 600 巻の中に記されていない言葉を、般若心経の中に見出す事」に注力。その言葉は主に 4 か所有る。

①観自在菩薩

②菩提薩埵～究竟涅槃

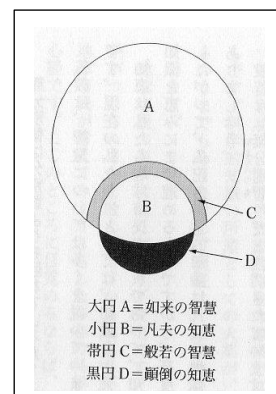
③能除一切苦、真実不虛

④羯諦、羯諦、波羅羯諦、波羅僧羯諦、菩提娑婆訶＜次頁に詳細記述＞

・大般若経 600 巻の中に記されていない言葉を、般若心経の中に見出す事

①観自在菩薩「他の般若経には全く見られないところである。周知のように、このボサツは、たとえば法華経の『観世音菩薩普門品第二十五』、通称『観音経』その他と結びついて、いわゆる観音信仰として確立して、今日にいたっている。」三枝充恵『観音経の真理』春秋社

②菩提薩埵は、般若波羅蜜多に依るが故に、心に罣礙なし。罣礙なきが故に、恐怖あることなし。一切の顛倒夢想を遠離して究竟涅槃す「この一句は般若心経だけであって、他の般若経にはありません。『無罣礙、離諸恐怖、顛倒夢想、涅槃』といったような言葉は、たとえば大品般若経にでていますが・・・」榛葉元水編述『般若心経大成』代々木書院  
「いまのところ、そのままの順序では、ほかの般若経に発見することはできない」友松円



諦『般若心経講話』

③能除一切苦、真実不虛「私は確認していませんが、多分、般若心経だけの言葉でしょう。般若心経にとっては重要な意味がありますが、『真実不虛』の一句は、他の般若経ではあまり必要と思えないからです。巽直道

④羯諦、羯諦、波羅羯諦、波羅僧羯諦、菩提娑婆訶「羯諦、羯諦の呪文は、本格的な般若経には見当たらない」友松円諦『般若心経講話』

<深般若波羅蜜多の「深」の意味>

「深」は開経偈（経典紐解時）の「無上甚深微妙の深」

「無上甚深微妙法 百千万劫難遭遇 我今見聞得受持 願解如来真實義」

仏陀の教えにただ接しただけではダメで、その教えが無上甚深微妙であることを身をもって悟らなければならない。

身近な例だと、喫茶店に行くと大勢の人々が顔が見えるが見知らぬ人を見ても遭遇とは言わない。隅に友達の顔を見つけると遭遇となる。その人がどんな人か知っている為仏典を読んで「私は仏法に遭遇し得ている」と思う事は増上慢。仏陀が地球市民に授けられている般若の智慧は私たちの知恵で分別してはならない。

どうしたら遭遇（心の奥底から悟る）できるか？

百読は一聞に如かず、百聞は一見に如かずで、受持には照見が一番強力である。

<心無罣礙の「罣礙」とは>

サンスクリット語のアーヴァラナは「覆うもの」という意味で罣礙と漢訳した。罣は圭の上に四があるが、圭は音符で意味なく四は「網の目」を意味する。礙は石偏の右に疑があるが、義は音符で意味なく石は「石で妨害」を意味する。イナスの感情は人間が生きていくうえで必要だし、向上進歩していく為の原動力である。

問題は永続させる場合。今日も明日もマイナスの感情を永続させると、心の覆いも永続する事になる。私達にはマイナスの感情を永続させ易い習慣性があるから、「習慣的なマイナスの感情」と仮称する。

しょっちゅうイライラしている、いつも心配している、何かあるとすぐ怒る、不平不満や愚痴ばかりこぼすという生活態度を支配しているのが、この「習慣的なマイナスの感情」故に原因の罣礙を取り去れば、難病は治る訳だが、本能的といってもよいほどの心の働きだから常識的には不可能。⇒そこで「般若波羅蜜多に依る」という事になる。

<今まで般若心経が難解と思われていた理由>

結局、思想的・実践的価値が内に隠されているのではなく、はっきりと明示されている。

「開かれた秘密」というか「潜在」でなく「顕在」

今までに蓄え続けてきた知識と経験とをしばらくなりとも心の片隅に押しやり、素直に受け取り、教えられている通りのことを実践に移すならば、極めて単純明快で、小学生にでもよくわかる経典になる。

あるものを省略したり、ないものを付加するのは、いわゆる「心の富める人」

①「心貧しく」と②「教えの通り実践に移す」が満たされなかった結果、③「行と証のない論」に終始してきたからと言える。

・深般若波羅蜜多を行ずる（大明呪の実践）

三世諸仏とは、過去・現在・未来の仏（≡仏陀？それとも＝観自在、勢至、文殊、普賢、弥勒、地藏菩薩で仏陀と同等？かは不明だけど）も（ですら）般若波羅蜜多に依らなければ阿耨多羅三藐三菩提を得る（無上正等正覚＝涅槃＝度する）事ができない。ましてや途上の菩薩（凡夫がチョット背伸び）は必ず（余計に）般若波羅蜜多に依らなければならない。

そして途上の菩薩でも般若波羅蜜多に依れば、その気になって手を伸ばしさえすれば誰もがつかめる智慧である。（誰もつかめなければお経として成立しない。）

大学病院で治らないような難病は「識」の誤用による「人間病」だから、「識」の「正（プラス）用」をして、心無罣礙になる事である。

＜「人間病」、「識」、「反復の技術」の解説＞

人間病とは「人間だけに多くて一般の動物に少ない病気」

人間と動物の頭の一番の違いは脳であり、人間には新しい皮質（生きていくために直接必要でない高度な心の働きを司る）がある。

古皮質

- 受：感受する（蓬萊軒の前で鰻蒲焼と匂う）
- 想：こい願う思い（食べたいと思う）
- 行：実行する（食べようとして入店）

新皮質——識：見分ける、考える（贅沢止めて、きよめ餅にでも妥協して家族みんなで食べよう）

罣礙が「生きる力、癒す力、」を抑圧していたのが解放されて、それらを活動させる為。表面の意識の「思い」を深層意識に刻み付けるには自分の思いを朝から晩まで時間がある時にはひたすら唱え続ける。

深層意識にまでその「思い」が到達すると、心の罣礙が取り除かれ、心は本来の自由を取り戻し自然治癒力が躍動する。

羯諦、羯・・でなく、具体的に「治る、治る、すぐ治る、きっと治る」と大きい声を出して（通勤中でも通勤電車の連結器・幌でされた人もいる。）

(2)質問・応答（チャットによる）

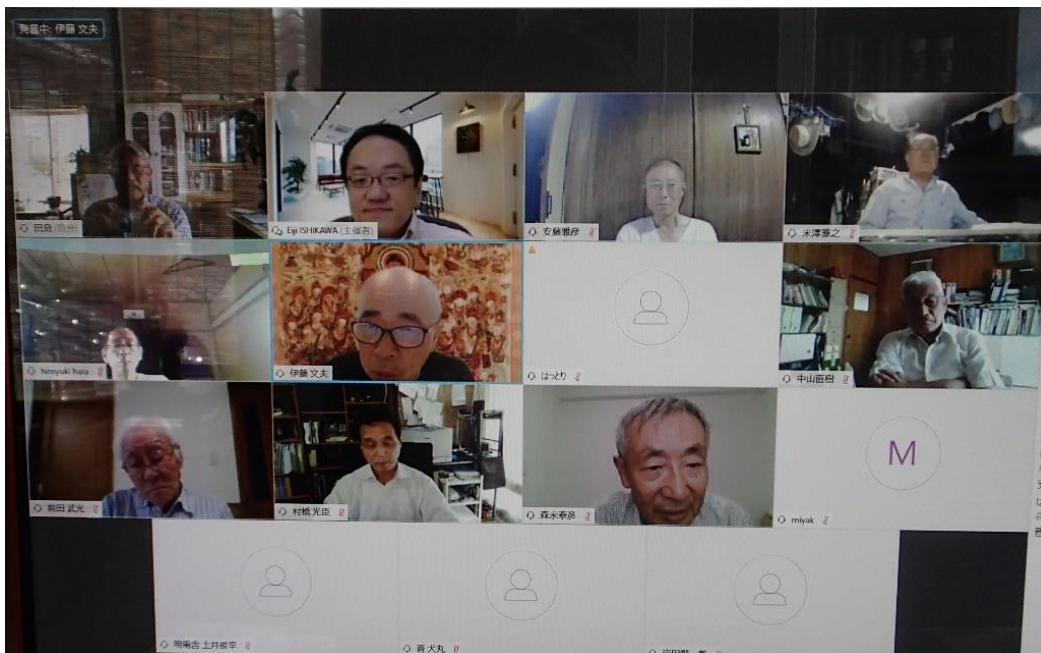
「講師の伊藤のヘアスタイルは剃髪姿（坊主刈り）であるがそれは般若心経と関連があるのか」？等の質問が5～6出てきたが、全てアットホーム的な個人的な質問範囲内ばかりであったので割愛する。

また初回であったのでWebex 利用方についての技術的質疑も若干あり、それらは当独立技術士会内部の情報工学専門メンバーにより回答・解決がされた。次回の参考にできる。

(3) オンライン懇親会（自由参加）16：00～17:40

参加者10名、酒とつまみをパソコンの前に持ち込んで上機嫌で懇談する方も。順次、退座して最後は8名に。Webexホストの石川さん、お付き合いごころうさまでした。

以上



セミナー参加者（パソコン画面より）



懇親会参加者（パソコン画面より）